

【添付資料】出演者プロフィール

野口五郎



1971年5月1日 デビュー、『青いリンゴ』のヒットで一躍ティーンのアイドルとして人気を獲得。翌年のNHK紅白歌合戦に当時の最年少記録で初出場を果たし、『甘い生活』『私鉄沿線』などのヒット曲で数多くの音楽賞を受賞する。20代初めには、生涯の師ともいえる筒美京平氏と共に海外レコーディングに挑戦、デヴィット・サンボーンやラリー・カールトンといった、トップミュージシャン達と意欲的な4枚のアルバムをリリース。ギタリストとしても高く評価される。(同作品は2026年5月6日にベスト盤「GORO IN U.S.A. BEST OF PAST 4YEAR STEPS」として発売され、サブスク解禁も話題となった。)俳優としても、NHK大河ドラマ『功名が辻』朝の連続テレビ小説『さくら』や『ケイゾク』『メゾン・ド・ポリス』など話題作に出演。ミュージカル『レ・ミゼラブル』では初代マリウス役として今でも伝説となっている。2022年5月に桑田佳祐の声掛けで集まったギターを抱えた5人の同級生親父バンド「時代遅れのRock'n'Roll Band」も話題になり、同年紅白歌合戦特別枠にて5人揃っての出演を果たした。

2025年には、『billboard classics 野口五郎 PREMIUM SYMPHONIC CONCERT 2025 KEEP ON DREAMING』にて、全国4都市をめぐるフルオーケストラとのシンフォニック・コンサートを開催。恒例のバンドツアーと合わせ、全国28箇所のコンサートを成功させた。2026年56(ゴロー)の年を迎え、「I sing songs!! ~歌がある限り~」全国ツアーを開催中。

公式サイト：<https://goro-net.com/>

渡辺俊幸(指揮・編曲)



愛知県名古屋市生まれ。米国バークリー音楽大学にてハーブ・ポメロイ氏およびマイケル・ギブス氏に師事。映画、テレビドラマ、アニメーションなどから純音楽まで作曲活動は多岐にわたる。代表作にNHK大河ドラマ「利家とまつ」、「毛利元就」、NHKドラマ「大地の子」、NHK連続テレビ小説「おひさま」、「どんど晴れ」、「かりん」、「ノンちゃんの夢」、映画「平成モスラシリーズ」、「UDON」、テレビアニメ「宇宙兄弟」、「新幹線変形ロボ シンカリオン」、オペラ「禅〜ZEN」、「ニンゲル」、「奇跡のプリマ・ドンナ」他がある。2005年愛知万博の開会式の音楽監督を担当。テレビドラマ「リング〜最終章〜」で第20回ザ・テレビジョン ドラマアカデミー賞 劇中音楽賞を受賞。平原綾香「おひさま〜大切なあなたへ」で第53回日本レコード大賞編曲賞を受賞。洗足学園音楽大学名誉教授。日本音楽著作権協会理事。日本作編曲家協会理事長。日本音楽作家団体協議会会長兼理事長。

公式サイト：<https://toshiyukiwatanabe.com/>

文音(ピアノ)



ピアニスト。音楽家。

3歳よりピアノを始める。国立音楽大学附属高等学校ピアノ科卒業。東京音楽大学器楽専攻ピアノ演奏家コース卒業。第12回ベーテン音楽コンクール バロックコース 高校生の部 全国大会第4位。SAKURA MUSIC COMPETITION 2021 ピアノ部門 東京大会 カテゴリーII 高校生の部全国大会第2位、及び入賞者による Autumn Concert 出演。第17回ヴィルトーゾピアノコンクール F級プロフェッショナル部門 第2位及び特別賞ヴィルトーゾ芸術未来賞受賞等々。大学在学中には、～N響メンバーによる～ゲートウェイ・ゾリスTEN・ヤングプレーヤーズにゲストとして出演し、ピアノコンチェルトでN響メンバーと共演を果たす。

現在はピアノ演奏活動の傍ら、アレンジャー、音楽専科教員、ピアノ講師としても活動中。NHK BS「歌える！青春のベストソング」準レギュラー。これまでに石井克典、浜野与志男、片田愛理、渡辺秋香、武村八重子、金山典子、四家ゆかりの各師に師事。

山形交響楽団

1972 年、東北初のプロオーケストラとして誕生。東京・大阪での「さくらんぼコンサート」など年間 150 回に及ぶ公演を実施している。2007 年から 2015 年まで「アマデウスへの旅」(モーツァルト交響曲全曲演奏会)を開催し、2017 年「モーツァルト交響曲全集」CD を発売。2008 年アカデミー賞映画「おくりびと」に出演。2020 年より「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」を、2022 年には「演奏会形式オペラシリーズ」をスタート。常任指揮者阪哲朗とのオペラ演奏は高い芸術性と個性を育み、その成果は常に注目を集めている。2023 年 12 月からは動画配信サービス「U-NEXT」での映像配信を開始。常任指揮者 阪哲朗、首席客演指揮者 鈴木秀美、ミュージックパートナー ラデク・バボラーク、創立名誉指揮者 村川千秋、桂冠指揮者 飯森範親。

公式サイト：<https://yamakyo.or.jp/>

東京フィルハーモニー交響楽団

1911 年創立。日本で最も長い歴史をもち、メンバー約 160 名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。定期演奏会や「午後のコンサート」、オペラ・バレエ演奏、NHK 他における放送演奏の他、各地での訪問コンサートや海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。国民的番組『NHK 紅白歌合戦』『クラシック TV』のほか 2020~21 年には『情熱大陸』『BS1 スペシャル』などのドキュメンタリー番組にも登場。1989 年より Bunkamura オーチャードホールとフランチャイズ契約を締結。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を、愛知県刈谷市と連携協定を結び、各地域との教育的・創造的な文化交流を行っている。

公式サイト：<https://tpo.or.jp/>

日本センチュリー交響楽団

街に響く。心に届く。

1989 年に発足、大阪府豊中市を拠点に活動するオーケストラ。2025 年 4 月より久石譲が音楽監督に就任、名誉ミュージックアドバイザーに秋山和慶を擁す。ザ・シンフォニーホールでのシンフォニー定期演奏会に加え、豊中市立文化芸術センターでの「豊中名曲シリーズ」(2026 年度より「とよなかシンフォニックシリーズ」を始動)を開催。教育プログラムや地域連携事業にも力を入れ、依頼公演、室内楽コンサート、アンサンブル等を合わせて年間 200 回を超える公演を行っている。飯森範親指揮「ハイドン交響曲集 Vol.1」(他複数)等がレコード芸術特選盤に選出、大阪府文化祭奨励賞受賞(2015 年度、2018 年度)など、その高水準な演奏は高い評価を得ている。「伝統と革新~未来をつなぐ音楽を~」をスローガンに掲げ、音楽を通じて地域と未来を結ぶ架け橋として進化し続けることを目指す。2024 年 12 月に楽団創立 35 周年を迎えた。

公式サイト：<https://jcso.or.jp/>

九州交響楽団

1953 年創立。のち財団法人化を経て 2013 年から公益財団法人となり、九州を代表するオーケストラとしてアジアの交流拠点都市「福岡」に本拠地を置く。「九響ビジョン」に掲げる活動理念のもと、アクロス福岡での「定期演奏会」をはじめ、「天神でクラシック」等の自主公演の他、青少年向けのコンサート、オペラやバレエ、合唱との共演、ポップス、映画音楽、ファミリーコンサートなど内容は多岐に渡り、福岡県を中心に九州各地で年間約 150 回の演奏活動を行っている。2013 年小泉和裕が音楽監督就任後、「ベルリオーズ／幻想交響曲」、「ベートーヴェン／交響曲第 9 番」、「マーラー／交響曲第 8 番《千人の交響曲》」「マーラー／交響曲第 3 番」「マーラー／交響曲第 2 番《復活》」の CD をリリース。2024 年に小泉は終身名誉音楽監督となり、首席指揮者に太田弦が就任。ミュージック・アドバイザーに篠崎史紀が就任。太田首席指揮者就任記念公演のライヴ録音「ショスタコーヴィチ／交響曲第 5 番・祝典序曲」がオクタヴィア・レコードからリリース。これまでに、福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞を受賞。

公式サイト：<https://kyukyo.or.jp/>